

【晉紀二十九】 起強圉大淵獻，盡重光單閼，凡五年。

■東晉、▲後燕、●北魏、前秦、後秦、後涼、西秦、続国訳漢文大成。經子史部 第6 卷 287p

列宗孝武皇帝中之下太元十二年（丁亥，387年）

【後燕は再び関東制覇の勢い】

■朱序は淮陰駐屯 **春，正月**，乙巳（8日），**朱序**（燕方面に強い）を以て青，兗二州刺史と為し，**謝玄**に代え彭城（現・江蘇省徐州市）に鎮ぜしむ。**序**は淮陰（現・江蘇省淮安市淮陰区）に鎮（燕に対する防衛上、建康に近く応援しやすい）するを求め、之を許す。**玄**を以て會稽内史と為す。

■丁未（10日），大赦す。

▲慕容垂は河を渡りて南下 燕主の（慕容）**垂**は河上に觀兵し，高陽王の（慕容）**隆**は曰く、
「**溫・詳**之徒は，皆な白面の儒生にして，烏合が群と為り，徒らに長河を恃み以て自ら固める，若し大軍が河を濟れば，必ず旗を望みて震壊し，戰を待たざる也。」

垂は之に従う。戊午（21日），鎮北將軍の**蘭汗**、護軍將軍の**平幼**を遣わして碭磧の西四十里にて河を濟らしめ，**隆**は大衆を以て北岸に陳す。**溫攀**、**溫楷**は果たして走りて（東阿）城に趣き，（6-288p）**平幼**は追撃し，大いに之を破る。**詳**は夜に妻子を將いて彭城に奔り，其の衆三萬餘戸は皆な燕に降る。**垂**は太原王の**楷**を以て兗州刺史と為し，東阿（現・山東省平陰県東阿鎮）に鎮ぜしむ。

▲慕容垂と宦官の光祚の縁 初め，**垂**は長安に在り，秦王の**堅**は嘗て之と手を交えて語り，**垂**は出で（續は無し），冗從僕射の**光祚**は**堅**に言つて曰く、

「陛下は頗る慕容垂を疑う乎？垂は久しく人の下の者に為るに非ざる也。」

堅は以て**垂**に告げる。秦主の**丕**の鄴より晉陽（現・太原市晋源区）に奔るに及び（前卷の九年にあり），**祚**と黃門侍郎の**封孚**、巨鹿太守の**封勸**は皆な來たりて奔る。**勸**は，**弈**（燕創立に貢獻）之子也。**垂**之再び鄴を圍む也（105卷九年のあり），秦の故臣の西河の**朱肅**等は各々其の衆を以て來奔す。詔して**祚**等を以て河北諸郡の太守と為し，皆な濟北（郡）、濮陽（郡）に營し，**溫・詳**に羈屬（羈 縻 附屬）せしむ。**詳**は敗れ，俱に燕の軍に詣りて降る。**垂**は之を赦し，撫でて舊の如く待す。**垂**は**光祚**を見，流涕して衿を沾（うるお）して，曰く、

「秦主は我を待つこと深く，吾は之に事えるに亦た盡す。但だ二公（長樂公**丕**、平原公**暉**）の猜忌の為に，吾は死を懼れて而して之に負け（105 卷九年にあり），一たび之を念う毎に，中宵に寐ねられず。」

祚は亦た悲慟す。**垂**は**祚**に金帛を賜り，**祚**は固く辭し，**垂**は曰く、

「卿は猶ほ復た疑う邪？」

祚は曰く、

「臣は昔者は惟だ事える所に忠なるを知るのみ，意あらず陛下の今に至るまで之を懷しむを，臣は敢えて其の死を逃がれんや？」

垂は曰く、

「此れは乃ち卿之忠なり，固より吾が求める所也，前言は之に戯れとする耳」。

之を待つこと彌々厚く，以て中常侍（**光祚**は秦の宦官なり）と為す。

■翟魏の動き **翟遼**（てまりよう 丁零族の翟魏皇帝 388-390）は其の子の**釗**（しょう）を遣わして陳、潁を寇せしめ，**朱序**は將軍の**秦膺**を遣わして撃ちて之を走らしむ。

前秦**[秦主苻登と勃海王の懿]** 秦主の(苻) 登は妃の毛氏を立てて皇后と為し、勃海王の懿を太弟と為す。后は、興之女也。遣使して東海王の纂を拜して使持節、都督中外諸軍事、太師と為し、大司馬を領せしめ、魯王に封じ、纂の弟の師奴を撫軍大將軍、并州牧と為し、朔方公に封ずる。纂は怒りて使者に謂って曰く、「勃海王は、先帝之子なり、南安王は何を以て立てずして而して自ら立つ乎？」長史の王旅は諫めて曰く。

「南安は已に立ち、理は改むるに中たる無し。今寇虜は未だ滅びず、宗室之中で自ら仇敵と為す可からざる也。」

纂は乃ち命を受ける。是に於いて盧水胡の彭沛谷、屠各(匈奴) 董成、張龍世、新平羌の雷惡地等は皆な纂に付き、衆は十餘萬有り。(苻師奴は兄の東海王苻纂と共に晋陽の兵数万を取り纏めると、杏城へ逃走ししていた)

後秦**[後秦の徙民政策]** 後秦主の(姚) 萇は秦州の豪傑三萬戸を安定に従す。(後秦は安定を根拠地に、長安に都するを企み、近在の豪傑の徙民を図る)

▲ **[齊涉と燕と翟遼]** 初め、安次(県、京兆安次県の西北、河北省廊坊市安次区)の人の齊涉は衆八千餘家を聚めて新柵に據り、燕に降り、燕主の垂は涉を拜して魏郡太守とす。既に而して復た叛し、張願に連なり、願は自ら萬餘人を帥いて進みて祝阿(県、山東省済南道齋河県、徳州市齊河県)之甕口に屯し、翟遼を招き、共に涉に應ず。高陽王の隆は垂に言つて曰く、

「新柵は堅固にして、之を攻めて未だ猝に抜くに易からず。若し久しく其の城下に兵を頓すれば、(6-289p)張願は流民を擁し帥いて、西に丁零(翟遼)を引き、患いを為すは方に深し。願の衆は多しと雖も、然るに皆な新附にして、未だ能く力闘せず。其の自ら至るに因り、宜しく先ず之を撃つべし。願の父子は其の驍勇を恃み、必ず肯えて避け去らず、一戦して擒にす可き也。願が破れれば、則ち涉は自ら存す能わす矣。」

垂は之に従う。

▲ **[燕は斗城に張願を攻め、青、兗、徐州を制覇]** 二月、范陽王の徳、陳留王の紹、龍驤將軍の張崇を遣わして歩騎二萬を帥いて隆に會して願を撃たしむ。軍は斗城(山東省済南道禹城県、現・徳州市禹城市)に至り、甕口を去ること二十餘里、鞍を解きて頓息す。願は兵を引いて奄至し、燕人は驚遽し、徳の軍は退き走り、隆は兵を勒して動かず。願の子の龜は出でて陳を冲(続は衝)き、隆は左右の王末を遣わして逆に撃ちて、之を斬らしむ。隆は徐に進みて戦い、願の兵は乃ち退く。徳は行くこと裡餘、復た兵を速(続は整)めて還り、隆と合し、隆に(続は曰つて)謂う、

「賊の氣は方に鋭し、宜しく且く之を緩めん。」

隆は曰く、

「願は人の備えざるに乗じる、宜しく大捷を得るべし。而るに吾が士卒は皆な河津を懸隔し、勢い迫まる之故を以て、人は自ら戦わんと思ひ、故に能く之を卻(続は却)く。今賊は利を得ず、氣は竭き勢いは衰え、皆な進退之志有り、齊しく奮る能わず、宜しく亟かに待ちて之を撃つべし。」

徳は曰く、

「吾は唯だ卿の為す所のまま耳。」

遂に進みて、甕口に於いて戦い、大いに之を破り、斬首は七千八百級、願は身を脱して三布口(山東省済南道肥城県、現・泰安市肥城市)を保つ。燕人は進みて歴城に軍し、青、兗、徐州の郡縣の壁壘は多く降る。垂は陳留王の紹を以て青州刺史と為し、歴城に鎮ぜしむ。徳等は師を還し、新柵の人の冬鸞は涉を執りて之を送る。垂は涉の父子を誅し、餘は悉く之を原す。

【前秦苻登の健闘】

前秦 **西秦** **〔前秦は仇池・西秦を称藩させる〕** **三月**、秦主の**登**は**竇冲**（続は衝）を以て南秦州牧と為し、**楊定**を益州牧と為し、**楊壁**を司空、梁州牧と為し、**乞伏國仁**を大將軍、大單于、苑川（甘肅省蘭山道金県、現・蘭州市榆中県）王と為す。

▲燕の上谷人の**王敏**は太守の**封戢**を殺し、代郡人の**許謙**は太守の**賈閏**を逐い、各々郡を以て**劉顯**に附く。

▲燕は樂浪王の**溫**を尚書右僕射と為す。

■**夏**、**四月**、戊辰（3日）、帝の母の**李氏**を尊びて皇太妃と為し、儀服は太后の如し。

後秦 **〔後秦の危機〕** 後秦の征西將軍の**姚碩德**は**楊定**の逼る所と為り、退きて涇陽（甘肅省涇原道平涼県、現・平涼市崆峒区）を過ぎる。**定**と秦の魯王の**纂**は共に之を攻め、涇陽に於いて戦い、**碩德**は大敗す。後秦主の**苻萇**は陰密（甘肅省涇原道靈臺県、現・平涼市靈台县）より之を救い、**纂**は退きて敷陸（陝西省榆林道鄜県、現・延安市富県）に屯す。

▲ **〔燕の中山帰還と論功行賞〕** 燕主の**垂**は碭磣より中山に還り、**慕容柔**、**慕容盛**、**慕容會**は長子（昨年逃亡）より來たり。庚辰（15日）、**垂**は之れが為に大赦す。**垂**は**盛**に問う、

「長子の人情は如何？取る可しと為す乎？」

盛は曰く、

「西軍は擾擾として、人は東歸之志有り、陛下は唯だ當に仁政を修（続は脩）めて以て之を俟つ耳。若し大國（続は軍）一たび臨めば、必ず戈を投じて而して來たらん、孝子之慈父に歸する若き也。」

垂は悦ぶ。癸未（18日）、**柔**を封じて陽平王と為し、(6-290p)**盛**を長樂公と為し、**會**を清河公と為す。

▲ **〔燕は翟遼を下して許す〕** 高平人の**翟暢**は太守の**徐含遠**を執り、郡を以て**翟遼**に降る。燕主の**垂**は諸將に謂って曰く、

「**遼**は一城之衆を以て、三國（晉・燕・西燕）之間に反覆す、討たざる可からず。」

五月、章武王の**宙**を以て中外の諸軍事を監し、太子の**寶**を輔けて中山を守らしめ、**垂**は自ら諸將を帥いて南に**遼**を攻め、太原王の**楷**を以て前鋒都督と為す。**遼**の衆は皆な燕、趙之人にして、**楷**の至るを聞き、皆な曰く、

「太原王の子は、吾之父母也！」（**楷**の父・恪は燕の相たり）

相い遇（続は帥）いて之に歸す。**遼**は懼れ、遣使して降を請う。**垂**は**遼**を以て徐州牧と為し、河南公に封じる。前みて黎陽に至り、降を受けて而して還る。

▲ **〔賈鮑と翟遼の中山夜襲撃退〕** 井陘（常山郡に属す県、直轄市保定道涇県、現・石家庄市井陘県）人の**賈鮑**は、北山の丁零の**翟遼**等五千餘人を招引して、夜中山を襲い、其の外郭を隱（続は陷）す。章武王の**宙**は奇兵を以て其の外に出て、太子の**寶**は内に鼓噪す。合い撃ちて、大いに之を破り、盡く其の衆を俘にし、唯だ**遙**、**鮑**は單馬にして走り免る。

● **〔魏は劉顯の内訌に乗じる、魏は安同を燕に遣わす〕** **劉顯**は地廣く兵は強く、北方の雄たり。其の兄弟の乖^{そむ}き争うに會いて、魏の長史の**張亮**は魏王の**珪**に言つて曰く、

「**顯**の志は併吞に在り、今其の内の潰れに乗じて（奴眞・沛邳が相次いで降る事）而して之を取らざれば、必ず後の患いと為る。然らば吾は能く獨り克たず、請う燕と共に之を攻めん。」

珪は之に従い、復た（昨年安同を使いにして燕の支援で窟咄を破る例あり）**安同**を遣わして師を燕に乞う。

■ **〔戴逵の辞退〕** 詔して會稽の處士の戴逵^{たいき}を征（統は徴）して、逵は累々辭して就かず。郡縣は敦く逼まりて已まず、逵は逃れて呉に匿れる。謝玄は上疏して曰く、

「逵は自ら其の志を求める（論語李氏篇に曰く、隱居して以て其の志を求むと）、今王命は未だ回^{めぐ}らず、將に風霜之患いに罹^{かか}らんとす。陛下は既に已に愛して而して之を器とす、亦た宜しく其の身名をして並に存せ使むべし。請う召命を絶たん。」

帝は之を許す。逵は、（統は戴トン、象に^にに似る、104 卷四年に見える）之兄也。

【前秦・後秦と周辺の大混乱】

前秦 秦主の登は其の兄の同成を以て司徒、守尚書令と為し、潁川王に封じる。弟の廣を中書監と為し、安成王に封じる。子の崇を尚書左僕射と為し、東平王に封じる。

▲ 燕主の垂は黎陽より中山に還る。

▲ **〔後燕国内の叛乱続出〕** 吳深は燕の清河太守の丁國を殺し、章武の人の王祖は太守の白欽を殺し、勃海の人の張申は高城（渤海郡の県、直隸省津海道鹽山県、現・滄州市塩山県）に據りて以て叛す。燕主の垂は樂浪王の溫に命じて之を討つ。

西秦 **〔西秦勢力拡大〕** 苑川王の國仁は騎三萬を帥いて鮮卑の大人の密貴、裕苟、提倫の三部を六泉（高平にあり、現・固原市原州区）に於いて襲う。**秋，七月，沒弈干、金熙**と渇渾川（甘肅省蘭山道會寧県、現・白銀市会寧県）に於いて戦う。**沒弈干、金熙**は大敗し、三部は皆な降る。

前秦 **後秦** **〔後秦主苻の太子興の長安駐屯〕** 秦主の登は瓦亭（甘肅省涇原道固原県、現・寧夏回族自治区固原市涇原県六盤山鎮）に軍し、後秦主の苻は彭沛谷（統は彭沛穀、盧水胡）の堡（貳県にあり）を攻めて、之を抜き、谷（統は穀）は杏城（榆林道中部県、現・延安市黃陵県）に奔る。苻は陰密（涇原道靈臺県、現・平涼市靈台県）に還り、太子の興を以て長安に鎮ぜしむ。（6-291p）

▲ 燕の趙王の麟は王敏を上谷に於いて討って、之を斬る。

▲ **〔燕は劉顯を追い詰める〕** 劉衛辰は馬を燕に獻じ、劉顯は之を掠める。燕主の垂は怒り、太原王の楷を遣わして兵を將いて趙王の麟を助けて顯を撃たしめ、大いに之を破る。顯は馬邑（雁門道馬邑県・朔県、現・朔州市朔城区）の西山に奔り、魏王（統は、の珪）は兵を引いて麟に會して顯を彌澤（山西省雁門道朔県、朔州市朔城区）に撃ち、又た之を破る。顯は西燕（統、西密×、劉顯が滅びて拓跋氏強し、慕容氏の計を為すに、両つながら利して俱にこれを存するに若くはなし、以て他日亡国の禍無かる可し）に奔り、麟は悉く其の部衆を収め、馬牛羊を獲ること千萬を以て數える。

後涼 **〔後涼は臨洮の張大豫を攻めて斬る〕** 呂光の將の彭晃^{じょけい}、徐晃は張大豫（前年前卷に臨洮に奔る）を臨洮（狄道・武始郡、現・甘肅省定西市臨洮県）に攻め、之を破る。大豫は廣武（現・甘肅省蘭州市城關区）に奔り、王穆は建康（現・甘肅省酒泉市東部）に奔る。**八月**、廣武の人は大豫を執りて姑臧に送り、之を斬る。穆は酒泉を襲據して、自ら大將軍、涼州牧と稱す。

■ 辛巳（18日）、皇子の德宗を立てて太子と為し、大赦す。

▲ 燕主の垂は劉顯の弟の可泥を立てて烏桓王と為し、以て其の衆を撫し、八千餘落を中山に徙す。

前秦 **後秦** **〔苻師奴自立に姚萇対応〕** 秦の馮翊太守の蘭犢^{らんとく}は衆二萬を帥いて頻陽（陝西省關中道富平県の東北、現・渭南市富平県）より和寧（載記によれば峰北杏城の東南にあり）に入り、魯王の纂と長安を攻めんと謀る。纂の弟の師奴は纂に尊號を稱せんと勧め、纂は従わず。師奴は纂を殺して而して之に代わり、犢は遂に師奴と絶つ。西燕主の永は犢を攻め、犢は遣使して後秦に救いを請う。後秦主の苻は自ら之を救わんと欲し、尚書

令の姚旻、左僕射の尹緯は曰く、

「苻登は近ごろは瓦亭に在り、將に虚に乗じて吾が後を襲わんとす。」

萇は曰く、

「苻登の衆は盛んにして、旦夕に制す可くに非ず。登は遲重にして決するは少なし、必ず輕軍深く入る能わず。兩月の間の比ほひ、吾は必ず賊を破りて而して返し、登至ると雖も、能く為す無からん也。」

後秦〔姚萇は苻師奴を破り關中制圧へ〕**九月**、萇は泥源（甘肅省涇原道寧県、現・慶陽市寧県新寧鎮）に軍す。師奴は逆え戦い、大敗し、亡げて鮮卑に奔る（其の後行方不明）。後秦は盡く其の衆を収め、屠各の董成等は皆な降る。（前秦の登はほぼ孤立無援状態）秦主の登は進みて胡空の堡（秦の屯騎校尉の胡空の築く堡、陝西省關中道邠県、現・咸陽市彬州市）に據り、戎、夏之に歸する者は十餘萬。

▲**冬**、**十月**、翟遼は復た燕に叛き、兵を遣わして王祖、張申と與に清河、平原を寇抄せしむ。

後秦〔姚萇は苻堅の屍を鞭打つ〕後秦主の萇は進みて西燕主の永を河西に撃ち、永は走る。蘭檀は復た兵を列して拒み守り、萇は之を攻め、**十二月**、檀を禽とし、遂に杏城に如く。後秦の姚方成は秦の雍州刺史の徐嵩の壘を攻め、之を抜き、嵩を執りて而して之を數む。嵩は罵りて曰く、

「汝姚萇は罪は萬死に當し、苻黃眉は之を斬らんと欲し（穆帝升平元年に姚萇が敗れた時の事）、先帝は之を止める。任を内外に授け、榮寵は極まれり矣。曾ち犬馬が養はれる所之恩を識るに如かず、親ら大逆（秦王苻堅を殺した事）を為す。汝羌の輩は豈に人理を以て期す可けん也！何ぞ速かに我を殺さざる、早に先帝が姚萇に地下に於いて之を治すを取見ろ！（続にこの部分無し）」

方成は怒り、嵩を三斬（足・腰・頸）し、悉く其の士卒を坑し、妻子を以て軍に賞す。後秦主の萇は秦主の堅の屍（続は尸）を堀り、鞭撻するに數無く、**(6-292p)**衣を剥ぎ裸形にし、之に薦くに棘を以てし、土を坎ちて而して之を埋める。

後涼涼州は大いに饑え、米斗は錢五百に直いし、人は相い食み、死者は太半す。

後涼〔呂光は張掖太守彭晃を討伐〕呂光の西平（前漢末金城、甘肅省西寧道碾伯県、現・青海省西寧市城中心区?）太守の康寧は自ら匈奴王と稱し、河湟（河西の張氏が置く、黄河・湟河流域の総称）太守の強禧を殺して以て叛す。張掖太守の彭晃も亦た叛し、東に康寧に結び、西に王穆に通じる。光は自ら晃を撃たんと欲し、諸將は皆な曰く、

「今康寧は南に在り、釁を伺い而して動かんとす。若し晃、穆未だ誅せざるに、康寧が復た至れば、進退は狼狽し、勢は必ず大危となる。」

光は曰く、

「實に卿の言の如し。然らば我今往かざれば、是に坐して其の來たるを待つ也。若し三寇（康寧・強禧・彭晃）連兵して、東西交りて至れば、則ち城外は皆な吾の有に非ず、大事は去る矣。今晃は初めて叛し、寧、穆と情契は未だ密ならず、其の倉猝に出でて、之を取るは差や易すからん耳。」

乃ち自ら騎（続、晋書後涼載記には歩騎）三萬を帥いて、倍道兼行す。既に至り、之を攻めること二旬、其の城を抜き、晃を誅す。

後涼初め、王穆は兵を起こし、遣使して敦煌の處士の郭瑀を招き、瑀は嘆じて曰く、

「今民は將に左衽せんとす。吾は之を救わざるに忍びんや」

乃ち同郡の索暍と與に、兵を起こして穆に應じ（この部分は抜けていて、続で補充）、粟三萬石を運んで以て之に餉る。穆、瑀を以て太府の左長史、軍師將軍と為し、暍を敦煌太守と為す。既に而して穆は讒言を聴き、

兵を引いて**鞏**を攻め、**瑒**は諫めても聴かず、城を出て大哭し、手を舉げて城に謝して曰く、
「吾は復た汝を見ず矣！」
還りて而して引いて覆面を被り、人と言せず、食せず而して卒す。**呂光**は之を聞き、曰く、
「二虜は相い攻め、此く擒と成る也、屢々戦う之勞を憚るを以て而して永く逸する之機を失う可からざる也。」
遂に歩騎二萬を帥いて酒泉を攻め、之に克ち、進みて涼興（張氏の置く郡、甘肅省安肅道安西県、現・酒泉市瓜州県）に屯す。**穆**は兵を引いて東に還り、未だ至らず、衆は潰え、**穆**は單騎にして走り、**駢馬**（酒泉郡に属す県、甘肅省安肅道玉門県、現・酒泉市玉門市）の令の**郭文**は其の首を斬りて之を送る。

列宗孝武皇帝中之下太元十三年（戊子，388年）

■**春，正月**，康樂獻武公の**謝玄**は卒す。

前秦 **後秦** **二月**，秦主の**登**は朝那（甘肅省涇原道安西県、現・酒泉市瓜州県）に軍し、後秦主の**苻**は武都（甘肅省涇原道鎮原県、現・慶陽市鎮原県）に軍す。

翟魏 **翟魏の自立** **翟遼**は司馬の**眭瓊**を遣わして燕に詣りて謝罪す。燕主の**垂**は其の數々反覆すを以て、**瓊**を斬りて以て之を絶つ。**遼**は乃ち自ら魏の**天王**を稱し、改元して建光とし、百官を置く。

▲ **燕の青州支配の動揺** 燕の青州刺史の陳留王の**紹**は平原太守の**辟閭渾**の逼る所と為り、退きて黃巾固（漢末に黃巾賊が保據する。固とは堡壘、山東省濟南道章邱県の北、現・済南市章丘区）に屯す。燕主の**垂**は更に**紹**を以て徐州刺史と為す。**渾**は、**蔚**（100 卷穆帝永和 12 年）之子也。苻氏の亂に因りて、齊地に據りて來降す。（6-293p）

▲ **垂は太子の寶を重用** **三月**，乙亥（四月 15 日?），燕主の**垂**は太子の**寶**を以て尚書事を錄さしめ、之に授けて政を以てし、自ら大綱を總じて而して已む。

▲ 燕の**趙麟**は許謙を撃ち、之を破り、**謙**は西燕に奔る。遂に代郡を廢し、悉く其の民を龍城に徙す。

後涼 **呂光は盟友の杜進を肅清** 呂光之涼州を定める也、杜進の功は多きに居る。光は以て武威太守と為す、貴寵されて事を用い、群僚は及ぶ莫し。光の甥の**石聰**は關中より來たる、光は之に問いて曰く、
「中州の人は我の政を為すを何如と言うや？」

聰は曰く、

「但だ聞く**杜進**有る耳と、舅有るを聞かず。」

光は是に由りて**進**を忌みて而して之を殺す。

光は群寮と與に宴し、語りて政事に及ぶ、參軍の京兆の**段業**は曰く、

「明公は法を用いて**太だ峻**なり。」

光は曰く、

「**吳起**（1 卷周の安王 15 年に見える）は恩無く而して楚は強し、**商鞅**（2 卷周の顯王 31 年に見える）は刑を嚴にして而して秦は興る。」

業は曰く、

「**起**は其の身を喪い、**鞅**は其の家を亡ぼすは、皆な殘酷之致せる也。明公は方に大業を開建し、**堯**、**舜**を景行（故人の高徳あるを慕い仰ぐ）するも、猶ほ濟らざるを懼れ、乃ち**起**、**鞅**の治を為すを慕うは、豈に此の州の士女は望む所哉？」

光は容^{かなたち}を改めて之を謝す。

■夏，四月，戊午(五月29日?)，朱序を以て都督司、雍、梁、秦四州諸軍事、雍州刺史と為し，洛陽に成せしむ。譙王の恬に代わらし以て都督兗、冀、幽、并諸軍事、青、兗二州刺史と為す。

西秦 苑川王の國仁は鮮卑の越質叱黎を平襄(略陽郡、甘肅省渭川道通渭県の西南、現・定西市通渭県平襄鎮)に破り，其の子の詰を獲りて歸る。

▲[燕主の垂の人事] 丁亥(27日)，燕主の垂は夫人の段氏を立てて皇后と為し，太子の寶を以て大單于を領せしむ。段氏は，右光祿大夫の儀之女。其の妹は范陽王の德に適う。儀は，寶之舅也。追って前の妃の段氏(100 卷穆帝升平二年に死す)を諡して成昭皇后と為す。

前秦 五月，秦の太弟の懿は卒し，諡して獻哀と曰う。

翟魏 翟遼は徙りて滑台(白馬城、河南省河北道滑県、現・安陽市滑県)に屯す。

西秦 [乞伏國仁は死す] 六月，苑川王の乞伏國仁は卒し，諡して宣烈と曰い，廟號は烈祖とす。其の子の公府は尚ほ幼なく，群下は國仁の弟の乾歸を推して大都督、大將軍、大單于、河南王と為し，大赦し，改元して太初とす。

●[魏は庫莫奚を破る] 魏王の珪は庫莫奚を弱落水(西喇木倫)の南に破る。秋，七月，庫莫奚は復た魏の營を襲い，珪は又た之を破る。庫莫奚なる者，本は宇文部に屬し，契丹と同類にて而して異種なり，其の先は皆な燕王の皝の破る所と為り，徙りて松漠之間(今の熱河圍場県から内蒙古克騰地方、千里松林・平地松林)に居す。

前秦 後秦 [前秦優勢に] 秦、後秦は春より相い持ち，屢々戦い，互いに勝ち負け有り，是に至り各々解いて歸る。關西の豪傑は後秦の久しく成功無きを以て，多くは去りて而して秦に附く。(6-294p)

西秦 [西秦は百官を置く] 河南王の乾歸は其の妻の邊氏を立てて王后と為す。百官を置き，漢制を仿(続は倣)い，南川侯の出連乞都を以て丞相と為し，梁州刺史の倕眷を御史大夫と為し，金城の邊芮を左長史と為し，東秦州(乞伏氏が置く州、南安に治す)刺史の秘宜を右長史と為し，武始の翟勰を左司馬と為し，略陽王の松壽を主簿と為し，從弟の軻彈を梁州牧と為し，弟の益州を秦州牧と為し，屈眷を河州牧と為す。

前秦 八月，秦主の登は子の崇を立てて皇太子と為し，弁を南安王と為し，尚を北海王と為す。

【北魏の拓跋儀は後燕の値踏み】

▲燕の護軍將軍の平幼は章武王の宙に會しては吳深を討ち，之を破り，深は走りて繹幕(山東省濟南道平原県、現・德州市平原県)を保つ。

●[魏は燕の衰亡を予期して動かず] 魏王の珪は密(続は陰)かに燕を圖るの之志有り，九原公の儀を遣わして使いを奉じて中山に至らしめ，燕主の垂は之を詰りて曰く、
「魏王は何を以て自ら來たらずや？」

儀は曰く、

「先王(拓跋力微)は燕(慕容歩帰)と與に並んで晉室に事え，世々兄弟^な為り，臣今使いを奉ずるは，理に於いて未だ失わず。」

垂は曰く、

「吾は今威は四海に加え，豈に昔日を以て比と為すを得んや！」

儀は曰く、

「燕が若し德禮を修めず，兵威を以て自ら強くせんと欲せば，此くは乃ち將帥之事にして，使臣の知る所に非ざる也。」

儀は還り、珪に言つて曰く、

「燕主は衰老し、太子は闇弱なり、范陽王（慕容徳）は自ら材氣を負^{たの}む。少主の臣に非ざる也。燕主が既に没すれば、内難は必ず作り、明（続は時）に於いて乃ち圖る可き也、今は則ち未だ可ならず。」

珪は之を善しとす。儀は、珪の母の弟の翰之子也。

西秦九月、河南王の乾歸は金城（）に遷都す。

■▲**〔張申・王祖と燕の戦い〕**張申は廣平を攻め、王祖は樂陵（済南道陽信県、現・浜州市陽信県）を攻める。壬午（25日）、燕の高陽王の隆は兵を將いて之を討つ。

前秦 **後秦** **〔苻登は姚萇を囲むも、帰る〕**冬、十月、後秦主の萇は安定に還る。秦主の登は食に新平に就き、衆萬餘を帥いて萇の營を圍み、四面は大いに哭す。萇は營中に命じて哭して以て之に應ぜしめ、登は乃ち退く。

■十二月、庚子（15日）、尚書令の南康の襄公の謝石は卒す。

▲**〔張申・王祖の討伐〕**燕の太原王の楷、趙王の麟は兵を將いて高陽王の隆に合口（渤海の合口、直轄省津海道滄県、現・滄州市滄県）に於いて會し、以て張申を撃つ。王祖は諸壘を帥いて共に之を救い、夜燕軍を犯し、燕人は逆え撃ちて之を走らす。隆は之を追わんと欲し、楷、麟は曰く、

「王祖は老賊なり、或（続は恐）は詐り走り而して伏を設ける、明を俟^まつに如かず。」

隆は曰く、

「此くは白（あきらかな）地の群盜なり、烏合し而して來たり、一決を徼幸し、素より約束有り、能く其の進退を壹にするに非ざる也。今利を失い而して去る、衆は用を為す莫し。勢に乗りて之を追えば、數里に過ぎずして、盡く禽とする可き也。申之恃む所は、惟だ祖に在り、祖破れば、則ち申は降らん矣。」

乃ち楷、麟を留めて申の壘を守らしめ、隆と平幼は分道して之を撃ち、明ける比おい、大いに獲りて而して還り、獲る所の之首を懸けて以て申に示す。甲寅（29日）、申は出でて降り、(6-295p)祖も亦た罪に歸す。

前秦秦は潁川王の同成（苻登の兄）を以て太尉と為す。

列宗孝武皇帝中之下太元十四年（己丑、389年）

▲**〔慕容農の信頼感大、龍城に慕容隆〕**春、正月、燕は陽平王の柔を以て襄國に鎮ぜしむ。遼西王の農は龍城に在ること五年、庶務は修まり舉がり、乃ち上表して曰く、

「臣はこの頃征（餘巖を誅し高句麗を撃った事、前卷十年にあり）に因りて即ち鎮し、統べる所の將士は安逸にして積年、青、徐、荊、雍の遺寇は尚ほ繁く、願はくは時に代りて還り、微效を展竭し、生きて餘力無く、没して遺恨無きは、臣之志也。」

庚申（5日）、燕主の垂は農を召して侍中、司隸校尉と為す。高陽王の隆を以て都督幽、平二州諸軍事、征北大將軍、幽州牧と為し、留台を龍城に建て、隆を以て留台の尚書事を録せしむ。又た護軍將軍の平幼を以て征北長史と為し、散騎常侍の封孚を司馬と為し、並びて留台の尚書を兼ねしむ。隆は農の舊規に因り、修めて而して之を廣め、遼、碣（遼水、碣石）は是に由りて遂に安ず。

後秦 **前秦** **〔姚萇は苻堅の像を祀り、苻登は怒る〕**後秦主の萇は秦が戦いて屢々勝つを以て、秦王（苻）堅之神助を得たりと謂い、亦た軍中に於いて堅の像を立てて而して之を禱りて曰く、

「臣が兄の襄（秦に殺された姚襄）は臣に敕して仇（続は讎）を復せしめ、新平之禍（前卷十年にあり）は、臣は襄之

命を行いて、臣の罪に非ざる也。**苻登**は、陛下の疏屬なり、猶ほ仇を復せんと欲す、況んや臣は敢て其の兄を忘れん乎？且つ**陛下**（105 卷八年にあり）は臣に命ずるに龍驤の建業を以てし、臣は敢て之に違ふや？今陛下の為に像を立て、**陛下**は臣の過ちを追計する勿かれ也。」

秦主の**登**は樓に上り、遙かに**蓑**に謂って曰く、

「臣と為りて君を弑し、而して像を立てて福を求めるも、庸ぞ益有る乎？」

因りて大呼して曰く、

「君を弑せし賊の**姚萇**は、何ぞ自ら出でずや？吾は汝と之を決せん！」

萇は應じず。之久しく、戦いて未だ利有らず、軍中は毎夜数々驚くを以て、乃ち像の首を斬りて以て秦に送る。

前秦 秦主の**登**は河南王の**乾歸**を以て大將軍、大單于、金城王と為す。

●甲寅（59日?）、魏王の**珪**は高車を襲い、之を破る。

後凉 **呂光の立太子と皇妃** **二月**、**呂光**（字は世明、時に涼州河西の地を保つも、三河を持たず）は自ら三河王と稱し、大赦し、改元して麟嘉とし、百官を置く。**光**の妻の**石氏**、子の**紹**、弟の**德世**は仇池（呂光の家は、長安の乱で仇池に走り楊氏を頼る）より來たりて姑臧に至り、**光**は**石氏**を立てて妃と為し、**紹**を世子と為す。

▲癸巳（9日）、魏王の**珪**は吐突鄰部を女水（弱洛水の西にあり、綏遠特別区域武川県、現・フフホト市武川県）に於いて撃ち、大いに之を破り、盡く其の部落を徙して而して還る。

前秦 秦主の**登**は輜重を大界（安定と新平の間に在り、甘肅省涇原道涇川県、現・平涼市涇川県）に於いて留め、自ら輕騎萬餘を將して安定の羌の密造保（堡）を攻め、之に克つ。

【前秦・後秦の戦いの転換点】

翟魏 **夏**、**四月**、翟遼は滎陽を寇し、太守の**張卓**を執る。（6-296p）

▲**慕容盛は薊城に駐屯** 燕は長樂公の**盛**を以て薊城に鎮せしめ、舊宮（慕容儼は薊に都す）を修繕す。**五月**、清河の民の**孔金**は**吳深**（反する事前卷11年の始まる）を斬り、首を中山に送る。

西秦 **乞伏乾歸の勢力拡大** 金城王の**乾歸**は侯年部を撃ち、大いに之を破る。是に於いて秦、涼、鮮卑、羌、胡は多く**乾歸**に付き、**乾歸**は悉く授けるに官爵を以てす。

後秦 **大界の争奪戦** 後秦主の**萇**は秦主の**登**と戦い、数々敗り、乃ち中軍將軍の**姚崇**を遣わして大界を襲わしむ。**登**は之を安丘に於いて邀撃し、又た之を敗る。

▲**燕は賀訥を撃破** 燕の范陽王の**德**、趙王の**麟**は**賀訥**を撃ち、奔るを追いて勿根山（内蒙古オールドス）に至り、**訥**は窮迫して降を請い、之を上谷（現・北京市昌平区）に徙し、其の弟の**染干**を中山に質とす。

■**秋**、**七月**、驃騎長史の**王忱**を以て荊州刺史、都督荆、益、寧三州諸軍と為す。**忱**は、**國寶**之弟也。

前秦 **後秦** **姚萇は策を使って秦の毛后などを捕らえ殺す** 秦主の**登**は後秦の右將軍の**吳忠**等を平涼に攻め、之に克つ。**八月**、**登**は苟頭原に據りて以て安定に逼る。諸將は後秦主の**萇**に決戦を勧め、**萇**は曰く、「窮寇と勝ちを競うは、兵家之忌む也、吾は將に計を以て之を取らん。」

乃ち尚書令の**姚旻**を留めて安定を守らしめ、夜、騎三萬を帥いて秦の輜重を大界に襲い、之に克ち、**毛后**及び南安王の**弁**、北海王の**尚**（苻登の子）を殺し、名將數十人を擒とし、男女五萬餘口を驅掠して而して還る。**毛氏**は美しく而して勇なり、善く騎射す。後秦の兵は其の營に入り、**毛氏**は猶ほ弓を彎き馬に跨がり、壯士數百を帥いて力戦し、七百餘人を殺す。衆寡敵せず、後秦の執える所と為る。**萇**は將に之を納んとし、**毛氏**は罵り且つ哭して曰く、

「姚萇、汝は先に已に天子（苻堅）を殺し、今又た皇后を辱めんと欲す。皇天后土、寧ぞ汝を容れん乎？」
萇は之を殺す。諸將は秦軍の駭き亂れるに因りて之を撃たんと欲し、萇は曰く、

「登の衆は亂れると雖も、怒氣は猶ほ盛んなり、未だ輕んず可からざる也。」

遂に止む。登は餘衆を収めて胡空堡に屯す。萇は姚碩德をして安定に鎮ぜしめ、安定の千餘家を陰密に従し、其の弟の征南將軍の靖を遣わして之に鎮ぜしむ。

■九月，庚午（19日），左僕射の陸納を以て尚書令と為す。

後秦 仇池 楊定は隴、冀を攻めて自立計る 秦主の登之東する也、後秦主の萇は姚碩德をして秦州の守宰を置かしめ、從弟の常を以て隴城に戍せしめ、邢奴をして冀城に戍せしめ、姚詳をして略陽に戍せしむ。楊定は隴、冀を攻め、之に克ち、常を斬り、邢奴を執り、詳は略陽を棄て、陰密に奔る。定は自ら秦州牧、隴西王を稱し、秦（前秦）は其の稱する所に因りて而して之を授く。

前秦 秦は既存勢力を追認 冬，十月，秦主の登は竇冲を以て大司馬、都督隴東諸軍事、雍州牧と為し、楊定を左丞相、都督中外諸軍事、秦、梁二州牧と為し、楊壁を都督隴右諸軍事、南秦、益二州牧と為し、約して與に共に後秦を攻めんとす。又た監河西諸軍事、并州刺史の楊政、都督河東諸軍事、冀州刺史の楊楷と約して各々其の衆を帥いて（続による）長安に會せしむ。政、楷は皆な河東人なり。秦主の丕の既に敗れるや、政、楷は流民數萬戸を收集し、政は河西に據り、楷は湖、陝之間に據り、（6-297p）遣使して命を秦に請い、登は因りて而して之を授ける。

▲ 燕と翟遼の紛争 燕の樂浪の悼王の溫は冀州刺史（信都に治す）と為り、翟遼は丁零の故堤を遣わして詐りて溫に降らしめ、溫の帳下（続は無し）と為り、乙酉（4日）、溫を刺して、之を殺し、其の長史司馬を並せ、守兵二百戸を驅帥して西燕に奔る。遼西王の農は襄國に於いて邀撃し、盡く之を獲え、惟だ堤は走り免れる。

十一月，枹罕の羌の彭奚念は乞伏に付き乾歸は、奚念を以て北河州刺史と為す。（枹罕は元は河州の治所。乞伏氏は境内において河州を置き、屈眷を以て牧とす。故に枹罕を北河州とし、奚念を刺史とする。）

【帝と司馬道子に隙間あり】

■ 帝の奢侈酒乱と政治の乱れ 初め、帝は既に親ら政事し（大元元年崇徳太后から受ける）、威權は己に出で、人主之量有り。已に而して酒色に溺れ、事を琅邪王の道子に委ねる。道子も亦た酒を嗜み、日夕帝と酣歌を以て事と為す。又た浮屠（仏教）を崇尚し、奢を窮め費を極め、親暱する所の者は皆な女甘（老女、女師）、僧尼とす。左右の近習は、争いて權柄を弄び、交通請托し、賄賂は公けに行われ、官賞は濫雜にして、刑獄は謬亂す。尚書令の陸納は宮闕を望んで歎じて曰く、

「好家に居して、織兒（小兒）は之を撞き壊さんと欲する邪？」

左衛領營將軍（領營を左衛する）の會稽の許營は上疏して曰く、

「今台府の局吏、直衛武官及び僕隸婢兒の母之姓を取る者（私生兒は母の姓を名乗る）は、本は郷邑品第無く、皆な郡守縣令と為るを得、或は職を帶びて内に在り、及び僧尼乳母は、競いて親黨を進め、又た貨賂を受ける。輒ち官に臨みて衆を領し、政教は均しからず、暴濫して罪無く、禁令は明かならず、劫盜は公けに行われる。昔年は書を下し群下に敕して規を盡くし、而して衆議は兼ね集まるに、採用する所無し。臣は聞く、佛者清遠玄虛之神なりと。今僧尼は往往にして法服に依傍し、五誠（不殺生・不偷盜・不邪淫・不妄語・不飲酒）の粗法すら尚ほ遵う能わず、況んや精妙（なる法）を乎？而して流惑之徒は、競いて敬事を加え、又た百姓を侵漁し、材（続は財）を取りて惠と為し、亦た未だ布施之道に合わざる也。」

疏奏すれども、省みず。

■ 「道子と帝のすきま」 道子の勢いは内外に傾き、遠近は奔り^{あつま}湊る。帝は漸く平かならず、然るに猶ほ^{ほか}外は優崇を加える。侍中の王國寶は讒佞を以て道子に寵有り、朝衆を扇動し、八座（五尚書二僕射一令）に諷して啟せしむ、

「道子は宜しく丞相、揚州牧に位を進め、黃鉞を假し、殊禮を加えるべし。」

護軍將軍の南平の車胤は曰く、

「此れは乃ち成王の周公を尊ぶ所以也。今主上は陽に當たり（人主は南面して政治す）、成王之比に非らず。相王は位に在り、豈に周公と為るを得ん乎？」

乃ち疾と稱して署（署名）せず。疏を奏して、帝は大いに怒り、而して胤が守り有るを嘉^{よみ}す。

■ 「范寧の土壇と成丁の延長の提言」 中書侍郎の范寧、徐邈は帝の親信する所と為り、數々忠言を進め、闕失を補正し、奸黨を指斥す。王國寶は、寧之甥也。寧は尤も其の阿諛^{にく}を疾み、帝に之を黜^{しりぞ}けるを勸む。陳郡の袁悅之は道子に寵有り、國寶は悅之をして尼克妙音（^{いは}續は尼妙音）に因りて書を太子の母の陳淑媛に致さ使めて云く、（6-298p）

「國寶は忠謹なり、宜しく親信せ見るべし。」

帝は之を知り、怒りを發し、托して（^{いは}續は無し）他事を以て悅之を斬る。國寶は大いに懼れ、道子と共に范寧を諂りて出して豫章太守と為す。寧は發するに臨み、上疏して言う、

「今邊烽（^{いは}辺境の烽火）は擧がらざるに而して倉庫は空置なり。古者民を使うことは歲に三日に過ぎず、今之勞擾は、殆んど三日之休みすら無し。生兒は復た擧養せず、鰥寡は敢えて嫁娶せざる有るに至る。臣は恐る、社稷之憂（^{いは}續は無し）、火を積薪に厝くも、^{たと}喩えるに足らざる也。」

寧は又た上言す、

「中原の士民は江左に流寓し、歲月は漸く久しく、人は其の業に安んず。凡そ天下之人は、其の先祖^{たず}を原ねるに、皆な世に隨つて適移し、何の今に至りて而して獨り不可ならん？謂うに宜しく其の封疆を正し、戸口は皆な土斷（^{いは}全て検地すべし）を以てすべし。又た、人性は涯^{かぎり}無く、奢儉は勢いに由る。今並廉之室も、亦た多くは贍らず、其の財力の不足に非ず、蓋し之を用いるに節無く、争いて靡麗を以て相い高く、亦た（^{いは}續は無し）限極有る無きに由る故也。禮に十九（にして死する）を長殤（未成年の死者を殤、その年長者）と為し、其の未だ成人ならざるを以て也。今十六を以て全丁と為し、十三を半丁と為し、任ずる所は復た童幼之事に非ず、豈に天理を傷つけ、百姓を困しむるに非ず乎？謂う宜しく二十を以て全丁と為し、十六を半丁と為せば、則ち人に夭折無く、生長は繁滋せん矣。」

帝は多く之を納れて用いる。

■ 「豫章の范寧の政治と徐邈の意見」 寧は豫章に在り、十五の議曹（16 県あり）を遣わして屬する城に下さしめ、風政を采求し、並びに吏は假還（吏が休暇の期日が来て府に還る）すれば、官長の得失を訊問す。徐邈は寧に書を與えて曰く、

「足下は聽斷するに有允にして、庶事は滞り無く、則ち吏は其の負（罪）を慎み、而して人聽（民意、晉書の作者は唐の太宗の諱・李世民を避けて、人聽とする）は惑わざらん矣、豈に須く邑ごとに至り裡ごとに詣り、其の游聲を飾らん哉！徒らに益を致すに足らざるに非ず、乃ち實に蠶漁（^{いは}遣わす所の者）之資する所、豈に善人群子にして而して其の事に非ざるを干し、告白する所多き者有らん乎！古より以來、左右の耳目と為らんと欲する者は、小人に非ざる無く、皆な先ず小忠に因りて而して其の大不忠を成し、先ず小信に藉^よりて而して其の大不信を成す、遂に讒諂^{ざんしゅう ざんてん}（^{いは}讒諂）をして並び進み、善惡をして倒置せ使めるは、戒めざる可けん哉？

足下は慎んで綱紀（郡の官僚）を選べば、必ず國士（続、士×）を得て以て諸曹を攝（総べて整える）し、諸曹は皆な良吏を得て以て文按（按は違り所、諸曹の文書の留めて按據と為す者）を掌^{つかさど}り、又た公方（公平方正）之人を擇び以て監司と為せば、則ち清濁能否は、事と與にして而して明かなり、足下は但だ平心に之を處せば、何ぞ耳目に取らん哉？昔明德馬后（漢の明帝の皇后馬氏）は未だ嘗て左右を顧みて與に言わず、遠識と謂う可し、況んや大丈夫は而して此を免かる能わず乎！」（6-299p）

前秦 **後秦**十二月，後秦主の**苻**は其の東門（安定の東門）將軍の**任**益をして詐りて遣使して秦主の**登**を招か使めて、門を開いて之を納れるを許す。**登**は將に之に従わんとし、征東將軍の**雷惡地**は兵を將いて外に在り、之を聞き、騎を馳せて**登**に見えて、曰く、

「姚**苻**は詐（続、許×）多し、信ずる可からざる也！」

登は乃ち止む。**苻**は**惡地**が**登**に詣るを聞き、諸將に謂って曰く、

「此の羌は**登**に見え^{まみ}ば、事は成らず矣！」

登は**惡地**の勇略人に過ぎるを以て、陰かに之を憚る。**惡地**は懼れ、後秦に降る、**苻**は**惡地**を以て鎮軍將軍と為す。

前秦秦は安成王の**廣**を以て司徒と為す。

列宗孝武皇帝中之下太元十五年（庚寅，390年）

■**春**，**正月**，乙亥（26日），譙の敬王の**恬**は薨ず。

西燕 **西燕と朱序、翟遼の洛陽爭奪戦** 西燕主の**永**は兵を引いて洛陽に向い、**朱序**は河陰より北して河を濟り、撃ちて之を敗り、**永**は走りて上黨に還る。**序**は追いて白水に至り、**翟遼**の洛陽に向わんと謀るに會して、**序**は乃ち兵を引いて還り、撃ちて之を走らす。鷹揚將軍の**朱黨**を留めて石門（河南省開封道滎澤県、現・鄭州市滎陽市）に戍せしめ、其の子の**略**をして洛陽を督護せ使め、參軍の**趙蕃**^{たす}を以て之を佐けしめ、身は襄陽に還る。

■ **帝と琅邪王道子の隱然対立、王恭の登用** 琅邪王の**道子**は寵を恃んで驕恣にして、宴に侍して酣醉し、或は禮敬を虧^かく。**帝**は浸（続は益）して平らかなる能わず、時望（当時明望ある者）を選びて藩鎮と為し以て潜かに**道子**を制せんと欲し、太子の左衛率の**王雅**に問いて曰く、

「吾は**王恭**、**殷仲堪**を用いんと欲す、何如か？」

雅は曰く、

「**王恭**は風神簡貴にして、志氣は方嚴なり。**仲堪**は細行に謹しみ、文義を以て著稱（著名）す。然るに皆な峻狹にして自ら是^ぜとし、且つ干略は長からず、若し委ねるに方面を以てせば、天下は事無きときは、以て職を守るにらん。若し其の事有るときは、必らず亂階と為らん矣！」

帝は從わず。**恭**は、**蘊**（皇后の父）之子、**仲堪**は、**融**（95 卷成帝咸康五年に見える）之孫也。**二月**，辛巳（2日），中書令の**王恭**を以て都督青、兗、幽、并、冀五州諸軍事、兗、青二州刺史と為し、京口に鎮ぜしむ。

■**三月**，戊辰（20日），大赦す。

【知略に勝る姚苻は雷惡地に快勝】

前秦 **後秦** **姚苻と苻登の死闘続く** 後秦主の**苻**は秦の扶風太守の**齊益男**を新羅堡に攻め、之に克ち、**益男**は走る。秦主の**登**は後秦の天水太守の**張業生**を隴東（安定の涇陽県、甘肅省涇原道平涼県、現・平涼市崆峒区）に攻

め、**萇**は之を救い、**登**は引いて去る。

後秦 **〔姚萇は魏掲飛・雷惡地に快勝〕** **夏，四月**，秦の鎮東將軍の**魏掲飛**は自ら**冲**（続は衝）**天王**と稱し、**氐**、**胡**を帥いて後秦の安北將軍の**姚當成**（続は董成、屠各種、時に北地に據る）を杏城に攻める。鎮軍將軍の**雷惡地**（前年後秦につき、また寝返る）は叛して之に應じ、鎮東將軍の**姚漢得**を李潤（陝西省關中道大荔県、現・渭南市大荔県）に攻める。後秦主の**萇**は自ら之を撃たんと欲し、群臣は皆な曰く、

「陛下は六十里の**苻登**（時に長安に赴き新豐の千戸固に據る）を憂えずして、乃ち六百里の**魏掲飛**を憂える、何ぞ也？」

萇は曰く、

「**登**は猝かに滅ぼす可きに非ず、吾が城も亦た**登**が猝かに能く抜く所に非ず。**惡地**の智略は常に非ず、若し南に**掲飛**を引き、**(6-300p)**東に**當成**に結び、杏城、李潤を得て而して之に據れば、長安の東北は吾が有に非ざる也。」

乃ち潜かに精兵一千六百を引いて之に赴く。**掲飛**、**惡地**は衆數萬有り、**氐**、**胡**の之に赴く者は首尾（続は前後）絶えず。**萇**は一軍至るを見る毎に、**輒**ち喜ぶ。すなわ群臣は怪しみ而して之に問い、**萇**は曰く、

「**掲飛**等は**同惡**を扇誘し、種類は甚だ繁く、吾は其の魁帥に克つと雖も、餘黨は未だ猝に平らぐは易からず。今鳥集して而して至る。吾は勝ちに乗りて之を取れば、一舉にして餘り無かる可からん也。」

掲飛等は後秦の兵少なきを見、衆を悉くして之を攻める。**萇**は壘を固くして戦わず、之に示すに弱きを以てし、潜かに其の子の中軍將軍の**崇**を遣わして騎數百を帥いて其の後に出でしむ。**掲飛**の兵は擾亂し、**萇**は鎮遠將軍の**王超**等を遣わして兵を給（続は縦）して之を撃ち、**掲飛**及び其の將士萬餘級を斬る。**惡地**は降を請い、**萇**は之を待つこと初めの如く、**惡地**は人に謂って曰く、

「吾は自ら謂う、智勇は一（続、上x）時に傑出すと、而るに**姚翁**に遇う毎に輒ち困しむは、固より其の分也！」

萇は**姚當成**に命じて營する所之地に於いて、柵孔（地を堀り孔を作り、木を竖てて柵とする）の中毎に輒ち一木を樹え以て戦功の旌とする。歳餘、之を問う、**當成**は曰く、

「營地は太いに小なり、已に之を廣めたり矣。」

萇は曰く、

「吾は結髮より以來、人と戦うに、未だ嘗て此く如き之快はあらず、千餘の兵を以て三萬之衆を破り、營地は惟だ小なりを奇と為し、豈に大なるを以て貴しと為す哉！」

西秦 **〔鮮卑の吐谷渾は西晉に称藩〕** 吐谷渾の**視連**は遣使して金城王の**乾歸**に獻見し、**乾歸**は**視連**を拜して沙州（河西の張茂は敦煌・晉昌・西域都護校尉・玉門大護軍の三郡三營を以て沙州と為す。吐谷渾は未だこの地を領さず）牧、白蘭王とす。

● **〔北魏の討伐〕** 丙寅（五月なら19日）、魏王の**珪**は燕の趙王の**麟**に意辛山（牛山の北、山西省雁門道右玉県、現・朔州市右玉県）に於いて會し、賀蘭、紇突鄰、紇奚の三部を撃ち、之を破り、紇突鄰、紇奚は皆な魏に降る。

前秦 **後秦** **〔馮詡人の郭質の挙兵〕** **秋，七月**，馮詡人の**郭質**は兵を廣郷（河南省開封道鄭県、現・鄭州市金水区）に起こして以て秦に應じ、檄を三輔に移して曰く、

「**姚萇**は凶虐、毒は神人に被る。吾が屬は世々**先帝**（苻堅）の**堯**、**舜**之仁を蒙り、常伯（侍中）、納言（尚書）之子に非ず、即ち卿校、牧守之孫也。與に其の恥を含んで而して存すよりは、孰若れぞや道を蹈みて而し

て死す！」

是に於いて三輔の壁壘は皆な之に應ず。獨り鄭縣の人の**荀曜**は従わず、衆數千を聚めて後秦に附く。秦は**質**を以て馮翊太守と為す。後秦は**曜**を以て豫州刺史と為す。

●**劉衛辰**は子の**直力鞬**を遣わして賀蘭部を攻めしめ、**賀訥**は困急し、魏に降を請う。丙子（30日）、魏王の**珪**は兵を引いて之を救い、**直力鞬**は退く。**鞬**は**訥**の部落を徙して、之を東境に處く。

■**八月**、**劉牢之**は**翟釗**を鄆城に撃ち、**釗**は河北に走る。又た**翟遼**を滑台に敗り、**張願**は來り降る。（翟遼・張願が叛くこと前卷11年にあり）（6-301p）

▲〔北平人の吳柱の乱と高陽王の隆の冷静な対応〕**九月**、北平人の**吳柱**は衆千餘を聚め、沙門の**法長**を立てて天子と為す。北平郡を破り、轉じて廣都を寇し、白狼城（熱河塔溝県の南、現・朝陽市凌源市）に入る。燕の幽州牧の高陽王の**隆**は方に其の夫人を葬し、郡縣の守宰は皆な之に會す。衆は**柱**の反を聞き、**隆**に城に還り、大兵を遣わして之を討つを請う。**隆**は曰く、

「今は閭閻（りやえん 村里）業を安んじ、民は亂を思わず。**柱**等は詐謀を以て愚夫を惑わし、誘脅して相い聚まり、能く為す無からん也。」

遂に留りて葬り訖わり、廣平（正に北平に作るべし）太守、廣都令を遣りて先ず歸らしめ、繼（ついで 續は續）いで安昌侯の**進**を遣わして百餘騎を將いて白狼城に趨かしむ。**柱**の衆は之を聞き、皆な潰ゆ、窮捕して、之を斬る。

■侍中の**王國寶**を以て中書令と為し、俄に中領軍を兼ねしむ。

■丁未（1日）、吳郡太守の**王珣**を以て尚書右僕射と為す。

西秦 〔吐谷渾視羆立つ、西秦に称藩せず〕吐谷渾の**視連**は卒し、子の**視羆**は立つ。**視羆**は其の父祖の慈仁を以て（103 卷簡文帝咸安元年にあり）、四鄰の侵侮する所と為り、乃ち將士を督厲し、功業を建てんと欲す。

冬、**十月**、金城王の**乾歸**は遣使して**視羆**を拜して沙州牧、白蘭王とす、**視羆**は受けず。

前秦 **後秦** **十二月**、**郭質**及び**荀曜**は鄭東（鄭県の東）に於いて戦い、**質**は敗れ、洛陽に奔る。

西秦 **越質詰歸**（太元13年に乞伏氏に附く）は平襄に據り、金城王の**乾歸**に叛す。

列宗孝武皇帝中之下太元十六年（辛卯、391年）

▲**春**、**正月**、燕は行台を薊に置き、長樂公の**盛**に加えて行台文書の事を録せしむ。

西秦 金城王の**乾歸**は**越質詰歸**を撃ち、**詰歸**は降り、**乾歸**は宗女を以て之の妻とす。

北魏 **後燕** 〔北魏と後燕は共同で賀訥を討つ〕**賀染干**（賀蘭の東偏で燕に近い）は其の兄の**訥**を殺さんと謀り、**訥**は之を知り、兵を舉げて相い攻める。魏王の**珪**は燕に告げ、郷導を為し以て之を討つを請う。**二月**、甲戌（1日）、燕主の**垂**は趙王の**麟**を遣わして兵を將いて**訥**を撃たしめ、鎮北將軍の**蘭汗**は龍城之兵を帥いて**染干**を撃つ。

【苻登は長安を攻め切れず】

前秦 **後秦** 〔苻登は長安に迫る〕**三月**、秦主の**登**は雍より後秦の安東將軍の**金榮**を范氏堡（陝西省關中道高陵県、現・西安市高陵區）に攻め、之に克つ。遂に渭水を渡り、京兆太守の**韋范**を段氏堡（陝西省關中道長安県、現・西安市長安區）に攻め、克たず、進みて曲牢（陝西省關中道長安県、現・西安市長安區）に據る。

▲**夏**、**四月**、燕の**蘭汗**は**賀染干**を牛都（内蒙古察哈爾特別区、現・ウランチャブ市興和県、牛川）に破る。

前秦 **後秦** 〔姚萇の慎重な計略、苻登を退かす〕**荀曜**は衆一萬有り、密かに秦主の**登**を召き、内應を為す

を許す。登は曲牢より繁川（杜陵県樊川、陝西省關中道長安県の南、現・西安市雁塔区三兆邑西北）に向い、馬頭原（長安の東）に軍す。五月、後秦主の苻は兵を引いて逆え戦い、登は撃ちて之を破り、其の右將軍の吳忠を斬る。苻は衆を収めて復た戦い、姚碩德は曰く、

「陛下は輕戦を慎み、毎に計を以て之を取らんと欲す、今戦いて利を失い而して更に前みて賊に逼る、何ぞ也？」

苻は曰く、

「登の用兵は遲緩にして、虚實を識らず。今輕兵は直進し(6-302p)、遙かに吾が東に據る、此れ必ず苟曜の豎子之と與に謀る有る也。之を緩めれば則ち其の謀は成るを得、故に其の交わる之未だ合せざるに及びて、急に之を撃ち、以て其の事を敗り散ずる耳。」

遂に進みて戦い、大いに之を破る。登は退いて郿（陝西省關中道郿県、現・宝鸡市眉県）に屯す。

前秦 **後秦** **秦の兗州刺史の強金槌を心を推して説く** 秦の兗州刺史の強金槌（氏の秦の親戚党）は新平に據り、後秦に降り、以て其の子の達を質と為す。後秦主の苻は數百騎を將して金槌の營に入る。群下は之を諫め、苻は曰く、

「金槌は既に去るとも苻登は、又た我を圖らんと欲す、將に安れの所にか歸らん乎？且つ彼は初めて來たりて款附す、宜しく心を推して以て之に結ぶ、奈何して復た不信を以て之を疑わん乎？」

既に而して群氏は苻を取らんと欲す、金槌は從わず。

【北魏は後燕を見限る】

▲ **燕の趙王麟は魏が国患となると見抜く** 六月、甲辰（3日）、燕の趙王の麟は賀訥を赤城（直隸省口北道赤城眷、現・張家口市赤城県）に破り、之を禽とし、其の部落の數萬を降す。燕主の垂は麟に命じて訥の部落を歸し、染干を中山に徙さしむ。麟は歸り、垂に言つて曰く、

「臣は拓跋珪の舉動を觀るに、終に國の患いと為らん、若からずんば之を攝（収め録す）して朝に還し、其の弟をして國事を監ぜ使めん。」

垂は從わず。

西燕 西燕主の永は河南を寇し、太守の楊佺期は撃ちて之を破る。

▲ **秋、七月**、壬申（2日）、燕主の垂は范陽（京兆涿県、現・保定市涿州市）に如く。

● **魏王の珪は燕主の垂の衰老を見て断絶** 魏王の珪は其の弟の觚を遣わして燕に獻見す。燕主の垂は衰老し、子弟は事を用い、觚を留めて以て良馬を求める。魏王の珪は與えず、遂に燕と絶ち、長史の張袞をして好^{よし}を西燕に求め使む。觚は逃げ歸り、燕の太子の寶は追いて之を獲、垂は之を待つこと初めの如し。

前秦 **後秦** 秦主の登は新平を攻め、後秦主の苻は之を救い、登は引いて去る。

西秦 **没弈干は乾歸と大兜を攻め、後反す** 秦の驃騎將軍の没弈干は其の二子を以て金城王の乾歸の質と為し、共に鮮卑^{だいとう}の大兜を撃たんと請う。乾歸は没弈干と與に大兜を鳴蟬堡（甘肅省渭川道泰安、現・天水市秦安県）に攻め、之に克つ。兜は微服して走り、乾歸は其の部衆を収めて而して還り、没弈干の二子を歸す。

没弈干は尋いで叛き、東に劉衛辰に合す。八月、乾歸は騎一萬を帥いて没弈干を討ち、没弈干は他樓城（甘肅省涇原道固原県、現・固原市原州区）に奔り、乾歸は之を射ち、目に中たる。

■ **九月**、癸未（14日）、尚書右僕射の王珣（先に桓温の府の主簿）を左僕射と為し、太子詹事の謝琰を右僕射と為す。太學博士の范弘之は殷浩を訟（続は論）し、

「宜しく贈諡を加えるべし」、

因りて桓温の不臣之跡を敘す。是の時桓氏は猶ほ盛んなり、王珣は、温之故の吏也、温は昏を廢し明を立て、忠貞之節有り^{しりぞ}と以て為す。弘之を黜^{しりぞ}けて餘杭（浙江省錢塘道餘杭県、現・杭州市余杭区）の令と為す。弘之は、汪（罪を桓温にうけるは 101 卷哀帝升平五年にあり）之孫也。（6-303p）

▲冬、十月、壬辰（5 5 日?、壬子なら 1 3 日）、燕主の垂は中山に還る。

●【拓跋珪は三日糧にて柔然を討つ】初め、柔然部の人は世々代に服し、其の大人の郁久間地粟袁^{いくきゅうりよちぞくえん}の卒するや、部落は分かれて二と為る。長子の匹候跋は父に繼ぎて東邊に居り、次子の緡紇提^{うんこつてい}は別に西邊に居る。秦王の堅が代を滅ぼすや、柔然は劉衛辰^{りゅうゑいしん}に附く。魏王の珪の即位に及び、高車等を攻撃し、諸部は率^{おおむ}ね皆な服従し、獨り柔然は魏に事えず。戊戌（5 9 日?）、珪は兵を引いて之を撃ち、柔然は部を擧げて遁走し、珪は追いて六百里を奔る。諸將は張袞^{てい}に因りて珪に言つて曰く、

「賊は遠く糧は盡き、早く還るに如かず。」

珪は諸將に問う、

「若し副馬（騎兵は又一馬あり）を殺し、三日食と為せば、足りる乎？」

皆な曰く、

「足るなり。」

乃ち復た倍道して之を追ひ、大磧の南床山の下に及び、大いに之を破り、其の半部を虜とし、匹候跋及び別部の帥屋撃^{すいおくげき}は各々餘衆を收めて遁走す。珪は長孫嵩、長孫肥を遣わして之を追う。珪は將佐に謂つて曰く、

「卿が曹^{ともがら}は吾の前に三日（続は糧）の問いし意を知る乎？」

曰く、

「知らざる也。」

珪は曰く、

「柔然は畜産を驅って奔走すること數日、水に至れば必らず留まる。我は輕騎を以て之を追えば、其（続、期×）の道裡を計れば、三日に過ぎずして之に及ばん矣。」

皆な曰く、

「及ぶ所に非ず也！」

嵩は追いて屋撃を平望川（内蒙古阿拉善部内、現・阿拉善左旗）に斬る。肥は匹候跋を追いて涿邪山に至り、匹候跋は從（続は衆）を擧げて降り、緡紇提之子の曷多汗、兄の子の社命、斛律^{こくりつ}等の宗黨數百人を獲る。緡紇提は將に劉衛辰に奔り、珪は追いて之に及び、緡紇提も亦た降り、珪は悉く其の部衆を雲中に徙す。

翟魏^{てい}翟遼は卒し、子の釗は代わりて立ち、改元して定鼎とす。燕の鄴城を攻め、燕の遼西王の農は撃ちて之を卻^{しりぞ}（続は却）く。

西秦^{せいしん}三河王の光は兵を遣わして虛（沒奔干を討つ隙）に乗りて金城王の乾歸を伐ち、乾歸は之を聞き、兵を引いて還り、光の兵は亦た退く。

【魏は赫連勃勃を逃す】

●【魏は劉衛辰と子の直力鞬の徹底的討伐も赫連勃勃を逃す】劉衛辰は子の直力鞬を遣わして衆八九萬を帥いて魏の南部を攻めしむ。十一月、己卯（1 1 日）、魏王の珪は兵五六千人を引いて之を拒み、壬午（1 4 日）、大いに直力鞬を鐵岐山（内蒙古オールドス内）の南に破り、直力鞬は單騎にて走る。勝ちに乗りて之

を追い、戊子（20日）、五原の金津（五原の宜梁県と九原県の間に在るべし）より南して河を濟り、^{ただち}逕に衛辰の國に入り、衛辰の部落は駭亂す。辛卯（23日）、^{いた}珪は直ちに其の居る所の悦跋城（代來城）に抵り、衛辰の父子は出で走る。壬辰（24日）、諸將を分遣し輕騎にて之を追う。將軍の伊謂は直力鞬を木根山に禽にし、衛辰は其の部下の殺す所と為る。**十二月**、珪は鹽池（甘肅省寧夏道鹽池県、現・吳忠市鹽池県）に軍し、衛辰の宗黨五千餘人を誅し（元年に劉衛辰が秦の兵を籍りて代を滅ぼし怨みを報いる）、皆な屍を河に投じる。河より以南の諸部は悉く降り、馬三十餘萬匹、牛羊四百餘萬頭を獲て、國用は是に由りて遂に饒す。

衛辰の少子の^{かくれん}勃勃（後の夏の創業者）は亡げて薛幹（続は干）部に奔り、珪は人をして之を求め使め、薛幹部帥の太悉伏は勃勃を出し以て使者に示して曰く、**(6-304p)**

「勃勃の國は破れ家は亡び、窮を以て我に歸す、我は寧ろ之と俱に亡びるも、何ぞ執えて以て魏に與えるを忍びんや！」

乃ち勃勃を沒奔干に送り、沒奔干は女を以て之の妻とす。

▲戊申（16日）、燕主の垂は魯口に如く。

前秦 **後秦** **〔姚萇の人望に群臣万歳を称す〕** 秦主の登は安定を攻め、後秦主の萇は陰密に如きて以て之を拒み、太子の興に謂って曰く、

「苟曜は吾が北行（長安より陰密は北）すると聞けば、必ず來たりて汝を見ん、汝は執りて之を誅すべし。」

曜は果たして興を長安に見、興は尹緯^せをして讓めて而して之を誅さ使む。萇は登を安定城の東で敗り、登は退きて**路承堡**（甘肅省涇原道鎮原県、現・慶陽市鎮原県）に據る。萇は酒を置きて高會し、諸將は皆な曰く、

「若し魏の**武王**（姚萇は兄の襄に諡して武王とす）に値はば、此の賊をして今に至ら令めざりしならん、陛下は**將牢**^{しょうろう}（まず自ら固くして妄に動かず）太いに過ぎる耳。」

萇は笑いて曰く、

「吾は亡兄に如かざるに四有り。身長八尺五寸、臂垂れて膝を過ぎる、人望みて而して之を畏れるは、一也。十萬之衆を將いて、天下と衡を争い、磨を望みて而して進み、前に横隈（続は陳）無きは、二也。古を温ねて今を知り、道藝を講論し、英雋を收羅するは、三也。兄（続は大）衆を**董帥**^{とうそつ}し、上下鹹（続は咸）な悦び、人死力を盡くすは、四也。（吾）功業を建立し、群賢を驅策するを得る所以の者は、正に算略の中に片長有るを望む耳。」

群臣は咸な萬歳を稱す。

令和2年4月20日 翻訳開始 10564 文字

令和2年7月5日 完訳完了 20137 文字

令和2年11月3日 全体修正 20216 文字 現代地名追加・年表

令和3年12月21日 書下し終了 22368 文字